

〔一〕傍線部の漢字の部分の読みをひらがなで答えなさい。傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 蚕が桑の葉を食べて育つ。
- ② 逆転ホームランは痛快だった。
- ③ 車窓から海岸の景色をながめる。
- ④ 貴重な仏像が特別に公開された。
- ⑤ 公園で思う存分遊ぶことができた。
- ⑥ 風呂場の鏡に顔をウツす。
- ⑦ 街の緑化運動をスインする。
- ⑧ 人気の連続ドラマがカンケツする。
- ⑨ 夏目漱石のセイカをおとずれる。
- ⑩ 村に昔から伝わるカンシユウがある。

〔二〕次の①～⑤の俳句の季節はいつですか。春・夏・秋・冬のいずれかで答えなさい。傍線を引いたところが

季語であり、季語の解説を参考にして考えること。

- ① 打水のゆき届きたる祭路地 (菖蒲あや)
季語【打水】道や庭先などに水をまく
- ② その中の一羽は遅し鳥帰る (稲畑廣太郎)
季語【鳥帰る】日本に飛来してきた渡り鳥が、また北方に帰っていく
- ③ 書を伏せて眼鏡拭きいる夜長かな (小田悦子)
季語【夜長】夜が長く感じられるようになる
- ④ 虫干しの背広に父の香の残る (伊藤康子)
季語【虫干し】衣類や書物などを干して湿気を取り、黴や虫の害を防ぐ
- ⑤ 火の用心大人に合わす子らの声 (鈴木多枝子)
季語【火の用心】拍子木を打ちながら町内を回り、火元へ注意を促す

【三】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問いは全て句読点を含んで答えなさい。)

日本は健康において世界一を誇っている。ジョギング、速歩、ヨガ、太極拳、エアロビクス、ラジオ体操、水泳など、健康維持のためにさまざまな取り組みが広がっている。まさに健康ブームなのだが、それが長寿に「A」のだろうか。そして、それは真に科学的なのだろうか。

歴史的に見れば、日本では①個人の肉体を国家が管理する体制が長い間続いてきた。富国強兵が謳われた時代、体を鍛える目的は国家への奉仕を完遂させるためであった。ラジオ体操もお国に仕えるために健康を保持することが目的であり、かつ植民地の人々を管理(監視)するためにも使われた。そこに集い同じ運動をすることを強要したのである。「健全な肉体に、健全な魂が宿る」として、健康な肉体を獲得することを優先したが、精神主義を鼓舞するため肉体を付属物としてしか見なさなかったとも言えるのだ。「体育」は、健全な身体が発達を通じて人間性を豊かにすることが目的であるのに、もっぱら体の育成ということに矮小化されてしまった。

戦後になって富国強兵策は下ろされたが、今度は国家の復興のために健康を維持することが求められた。依然として肉体は国家が管理するものでしかなかったのだ。そのことは、今なお各種のスポーツで②精神主義がまかり通り、国家の名譽を担っていることからわかる。精神と肉体は一体であるとして、体を鍛えることが精神を強めると誤認して特訓に励んでおり、数々の国際大会で国旗が掲揚されるように、国家を代表して勝敗を争う状況が続いている。その結果、オリンピック選手が日の丸を背負って重圧を受け、それを肉体の厳しい鍛錬に置き換え、結局体を潰してしまう場合も見受けられる。スポーツにおける国家第一主義が精神主義を生み出している面もある。

しかし、少しずつ様変わりしつつある。スポーツ選手が「楽しみたい」という言葉を ☐ X ☐ Y 音に語るようになり、勝利よりも全力を尽くすことを目標とする選手も増えている。外国の選手の多様な生き

方を学び始めたことも影響しているだろう。結婚して子どもを産んだ女性選手が日本でも現れ、中年の選手も多く出現している。経験主義的な訓練法から、科学的トレーニングが重要視されるようになったことも変化の兆しである。

その背景には、ようやく日本でも健康のみを指向したスポーツ活動が根付きつつあることがある。高齢者が増えて、健康維持が主目的となった体操・速歩・ジョギング・水泳などが流行しているからだ。生活の基盤となる年金が減る一方の高齢者にとって、健康を害してはやっていけないことが目に見えており、未来への不安を少しでも和らげようとしているのだろう。

I、社会的な圧力に煽られた健康ブームなのである。それが「健康のためには命を失っても構わない」という倒錯した心情にも通じている。(P) 何のために長生きするかを問うことなく、長生きすることのみが目的となっているのである。健康であることが

「B」のだ。

健康とは、単に病気の状態ではないことを意味するのではない。人々が何に対しても積極的に働きかけ、意欲的に生き続けられる状態を維持することなのだ。健康であることが目的ではなく、人生を豊かに生きたいという願望を満たすために健康が必要なのである。

II、たとえば病気になることも、生きる意志を失わず、興味を持って対象に接する態度が持ち続けられるなら健康だと言える。

人々の生活がそれなりに豊かになったことも健康ブームの根底にある。手が出せる範囲で健康が買えるような気がするのだ。要は自分の生活態度と日常の心がけ次第なのだが、それを忘れて物品を売り買いつけるかのような感覚で、安易に金で健康も手に入れようとする。お酒を飲む前に胃薬を飲み、夜更かしをするので健康増強剤を口にし、疲れたと思ったらビタミン液を飲み干す。本人も、そんなことでは本当の健康は得られないと思っはいるのだが、それで何となく安心してしまっているのである。

当然、そこに付け入る疑似科学も現れてくる。③ヨガがオカルトの隠れ蓑となったように、健康と引き換えに何にでも手を出す消費者の心理をとらえて疑似科学に引き込まうとする。手取り早く健康になりたい

という欲望に応えるかのように、即効性を謳う健康食品や健康器具が数多く売られている。一般に消費者は飽きつぱく効能が早く見られないとすぐに乗り換えるから、売り手側も次々と手を替え品を替えて対応する。その結果、形こそ違っているけれども本質的には Y E X 曲のものがあふれている。これまでに手を出した健康食品や健康器具が部屋にあふれかえっている人を見かけることがある。捨てるに捨てられず、いつて再度使う気にはなれない。健康志向が招いた喜劇と言ったことができるだろう。

※3 恫喝産業
「恫喝産業」という言葉がある。「あなたのお子さんが落ちこぼれてもいいの？」と恫喝して学習用品を買わせようとする教育産業や、「あなたは健康を失ってもいいの？」と問いかける健康産業が当てはまるかもしれない。人の弱みにつけ込んだ商売で、疑似科学っぽいものが多い。人間は恫喝されると慌ててしまい、つい手を出してしまうのだ。 #

健康ブームと同じで、現代医療がひたすら長生きさせることに C ことにも注意しなければならない。長寿を謳い文句にしたクリニックが多く出現し、老化防止のためにせつせと金を使わせている。その決まり文句は「人間は誰でも一二〇歳まで生きられる」で、いかにも長寿を全うできそうな幻想を振りまいている。 III 、早く死にたくない、長生きしたいとは誰もが願うことであり、そのために出来ることならなんでもしたいと思うのが人間の心理である。それは拒否できないし、非難することでもない。

IV 、何のための長生きか、つらつら考えてみることも必要だろう。日本は世界一の長寿国だが、寝たきり率でも世界のトップである。身動きできないままベッドに縛り付けられた高齢者が非常に多いのだ。それで果たして健全な長寿国と言えるのだろうか。(Q) 長生きすることが目的となってしまうと、長生きすることによって何を達成するかが問われていないのである。

(池内了『疑似科学入門』)

(問題作成の都合上、表記を改めたところがあります。)

※1 鼓舞・・・はげまし気持ちをふるい立たせる

※2 疑似科学・・・科学的に正しいかのように装っているが実は非科学的なもの

※3 恫喝・・・おどすこと

問一 空欄 I IV にあてはまる言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A しかし イ だから ウ むろん エ いわば オ もしくは

問二 空欄 X Y (本文中に二箇所あります) にあてはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問三 空欄 A B C にあてはまる言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 画一化している
イ 精を出している
ウ 功を奏している
エ 呪文化している

問四 傍線部①「個人の肉体を国家が管理する」とは、どういうことですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 国が国民の健康を維持しようとする中で、人々に同じような運動を強制してしまったということ。
イ 国が国民の健康を維持しようとするのは、あくまでも国の発展に必要な労働力の確保のためであったということ。

ウ 国が国民の健康を維持しようとするあまり、それぞれの人生を豊かにするという本来の目的が見失われたということ。

エ 国が国民の健康を維持するために、人々の生活や運動をすみずみまで監視していたということ。

問五 傍線部②「精神主義がまかり通り」とは、どういうことですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 運動が上手になることよりも、運動を通じて人間性を豊かにすることばかりが求められてきたこと。
イ 肉体を精神の付属物と見なし、肉体の健康が維持できるかどうかはすべて気持ちの問題とされてきたこと。

ウ 健康を損なうような練習に対しても、それは国に貢献しようとする姿勢の表れとされてきたこと。

エ スポーツ選手には、国を代表して戦う重圧をはねかえすだけの精神の強さが求められてきたこと。

問六 傍線部③「ヨガがオカルトの隠れ蓑となった」とは、どういうことですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 非科学的な健康法のあらゆるものをヨガとしてひとくくりすることで、ヨガのもつ神秘的な魅力が増したということ。

イ 非科学的な健康法であっても、ヨガの一種であるかのように装うことで、怪しいイメージを打ち消すことができたということ。

ウ ヨガがいかに健康によいものであるかが科学的に立証されるにつれて、非科学的な健康法への注目がそれほど及ばなくなったこと。

エ さまざまな健康法が流行して廃れていく中で、ヨガのもつ安定した人気は際立っているということ。

問七 本文の【#】から【#】の部分で述べられている、世間にあふれかえる健康商品の問題点について六十字以内でまとめなさい。

問八 二重傍線部P「何のために長生きするかを問うことなく、長生きすることのみが目的となっているのである」、Q「長生きすることが目的となってしまっ、長生きすることによって何を達成するかが問われている」というような、目的のための手段にすぎなかったものが目的になってしまっている例がみなさんの身の回りにないでしょうか。長寿や健康以外の例を挙げて説明しなさい。

四

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問いは全て句読点を含んで答えなさい。)

吾郎は千明に誘われて二人で学習塾を立ち上げた。やがて二人は結婚し、千明の母・頼子、千明の娘・落子(前夫との間の子)も含めた四人で暮らしている。塾の規模拡大をめざす千明と、塾の仕事を抑えて家庭を優先したい吾郎とは、意見が対立することが多く、千明が勝負塾との合併の話を吾郎に相談することのないまま進めたため、吾郎と千明の関係は険悪になった。そんな中、休日家族そろって谷津遊園に行くことにした。

谷津遊園へ行くことの提案に、(A)出不精の千明は当初、いい反応をしなかったのである。とうに安定期を迎えているにもかかわらず、^{※1}身重を理由に渋り、ガリ版のインク臭の中から引っぱりだすのに苦心した。ひとたび行楽の地へ着けば、しかし、外の空気はやはり人間を解放する。とりわけ濃厚な潮風が吹きわたる遊園地では、しんねりむつりしているほうがむしろかしい。冷戦も一時休戦とばかりに千明と頼子にも自然な会話が戻り、お気に入りの白いワンピースでしゃれこんだ落子の表情も明るい。

思えば、開塾からこのかた、物理的にも精神的にも常に追われていて、一家で楽しむ休日からは縁遠かった塾に始まり塾に終わる日々。その繁忙が、落子のみならず千明や頼子にも鬱積を与えていたのかもしれない。メリハリを欠いた日々を反省しつつ、落子とのしりとりで待ち時間をつぶしていた①吾郎の胸がにわかにざわつぎだしたのは、ようやく二人の順番が近づいてきたころだった。

「うわー！」

「ぎゃー！」

「助けてー！」

新たな客をのせたコースターが動きだすたび、頭上からは無数の悲鳴が降りそそぐ。自分とは無関係の効果音のようにそれを聞き流していた吾郎は、列の先が縮まっていくにつれ、体の節々に常がないこわばりをおぼえはじめた。ついに順番が訪れ、いかにも安っぽい座席に落子とよりそったときには、いやな汗をかいていた。

この機械は本当に安全なのか。どこのどいつがこんなものを設計したのか。

「ね、お父さん」

汗ばんだ手で鉄の棒をしかとにぎりしめる吾郎に、そのとき、落子が妙にまったりと語りかけてきた。

「お父さんは、うちの塾が大きくなったら、いや？」

②なぜ今？この状況で？疑問符を頭にちりばめながらも、喉がからからの吾郎は何も返せない。

「私は、お父さんの味方です。絶対、悪いのはお母さんだっと思うけど、でも、でも、塾が大きくなったらいいなって、ときどき、ちよっと思っかも」

安全ベルトの確認を終えた係員が去り、コースターがゆっくりと動きだす。高度と速度が増すにつれ、未知なる領域へ彼らを導くレールのむこうには海の青が開けていく。

「だって、うちの塾が大きくなったら、もっともっと、たくさんの子が通うようになるでしょう。もっともっとたくさんの子が通うようになったら、そうしたら、そうしたら……」

もしや落子はこの究極のどさくさにまぎれて、ふだんは言えないことを言おうとしているのではないか。吾郎がそこへ思い至った直後、すんと底がぬけたような衝撃が襲い、流れる景色が風になった。

「そしたら、そしたら、私……」

爆音さながらの悲鳴。風の音。機械の音。すべての音が競いあうように耳へなだれこんでくる中、ふしぎと吾郎には娘の声をかくも(B)鮮明に捕らえることができた。

「もう塾子って呼ばれなくなるでしょう！」

哀れる娘の魂の叫びを聞いたその日、結果的に、吾郎は妻と義母の胸奥にも触れることになった。

頼子の思いを知ったのは、四人でビックリハウスや観覧車を楽しんだあと、手洗いへ連れだった千明と落子とともに待っていたときだった。

「吾郎さんには本当に感謝しているのよ。あんな身勝手な娘をもらってくれて、落子のこともかわいがってくれて」

二人がならんだベンチの正面には巨大プールがあり、その水をへだてた対岸には海賊の城が白くかすんで

いる。徐々にたれこめてきた雲に溶けいりそうな塔を見上げて、頼子はほうつと息をついた。

「心苦しく思ってるわ。まだ若いあなたに苦勞ばかりかけて。本当の話、あなた、逃げだしたいって思わない？」

「三日に一度は思います」

「まあ」

「嘘です。幸い、のんきな性分ですからご心配には及びませんよ。千明さんの目には、ときどき、のんきすぎるように映るようですけど」

吾郎が冗談でかして笑っても、③赤い紅をさした頼子の唇は笑わない。

「吾郎さん、一度話しておかきやと思っただけ、千明が塾の合併にこだわるのは、たぶん、私のせいでもあるのよ」

「お義母さんの？」

「戦死した夫が名家の出だったことは、あなたも聞いているでしょう。夫が戦場にいるあいだ、私と千明は疎開もかねて、その実家でお世話になっていたの。そこで、さんざんいびられてね。私がカフェで女給をしていたことが、舅や姑にはどうしても受け入れられなかったらしくて、いかがわしい商売の女だの、息子をたぶらかしただのってねちねちやられてね。千明までがほかの孫たちと差別されて、つらい思いをさせちゃったの」

だから、と頼子はうつすらうるんだ目を細めた。

「だから、千明はよく知ってるのよ。親の職業が、いかに子どもの人生を左右するかを」

園内の喧騒に膜がかかったように、利那、吾郎の頭が真っ白になった。その白々とした中にまず浮かんだのは、X の顔である。続いて、千明の胎内で刻々と成長している命。

「まさか、子どもに勉強を教える塾がカフェなみに Y 目で見られるなんて、始めるまでは考えもしなかったじゃない。いつまで肩身の狭い日が続くのか、内心、千明は焦ってるんじゃないかしら。こんなはずではなかったと」

「ああ……」

「娘をかばうわけじゃないけど、親の職業のことで子どもにみじめな思いをさせるのは、本当に情けないものよ」

いつもほがらかな義母の憂い顔に、吾郎は彼女がしのできた苦難を思い、それから今の千明が背負っている苦難へ思いを馳せた。本来ならば自分が半分背負うべきであったその重荷へ。

「すみません。④やつぱりばく、まだまだぜんぜん、父親としてダメですね」

「いいのよ。吾郎さんのそののんきさに私たちは救われてるんだから」

「やつぱり、お義母さんものんきとお思いでしたか」

「ふふ」

「あの、この際だからうかがいますけど、勝見塾との共同経営の話、お義母さんはどうお考えですか。子どもたちのことを第一に考えるなら、やつぱり進めるべきなのではないですか」

「八千代塾がここまでやってこられたのは、吾郎さん、あなたがまず何よりも塾生のことを第一に考えてきたからだと思えますよ」

⑤ 間髪をいれずに返したあと、頼子は「ただ」と言いそえた。

「塾子ももっと大きくなったときのことを考えると、いずれは、自宅と塾をべつにしてあげたほうがいいかもしれないわね」

「そうか。落ちゃんも年ごろになるんですよね」

「そういえばこの前、落子がこっそり教えてくれたのよ。将来の夢」

「夢？」

「大きくなったら、八千代塾の先生になって、お父さんの一番の助手になるんですって」
人の波をすりぬけて落子が駆けもどつてきたため、その話はそこで中断されたのだが、このとき頼子に告げられた娘の小さな夢は、その後、長きにわたって⑥吾郎の胸に輝く一番星となった。

(森絵都『みかつき』)

※1 身重……妊娠していること

※2 塾子……落子は学校で「塾子」というあだ名をつけられ、からかわれていた。

※3 女給……カフェなどで客の接待や給仕をする女性

※4 利那……その瞬間

問一 二重傍線部(A)と(C)の意味として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

(A)「出不精」 ア 身体を休めたい イ 人込みを嫌う ウ 外出を面倒がる

(B)「鮮明に」 ア すぐに イ はつきりと ウ あつかりと

(C)「間髪を入れず」 ア 迷うことなく イ とつさに ウ 感情をこめずに

問二 空欄 X にはどの人物の名前が入るのがふさわしいですか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 頼子 イ 千明 ウ 落子

問三 空欄 Y には色を表す言葉が入る。その色を漢字一字で答えなさい。

問四 傍線部①「吾郎の胸がにわかにざわつきた」のは、なぜですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア コースターの安全性が信用できず、不安がつつてきたから。
イ コースターに乗って他の客と同じように悲鳴を上げてしまうのは恥ずかしいから。
ウ コースターに乗ってから、落子とどういふ話をすればいいのかわからないから。
エ コースターにはじめて乗ることに対する期待と不安が入り交じっていたから。

問五 傍線部②「なぜ今?この状況で?」という疑問に対する吾郎の考えが述べられている一文を探し、はじめの五字を書き抜きなさい。

問六 傍線部③「赤い紅をさした頼子の唇は笑わない」のは、なぜですか。このときの頼子の気持ちの説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分や娘のつらかった過去を思い出していたため、冗談を笑う気分にはなれなかったから。
イ 吾郎へ自分の思いを打ち明けようとしていたため、冗談で話をそらしたくはなかったから。
ウ これまで吾郎にかけてきた迷惑を思うと、冗談を笑っている場合ではないと思ったから。
エ 塾の将来について真剣に話し合おうとしていたため、冗談で話をそらしたくはなかったから。

問七 傍線部④「やつぱりばく、まだまだぜんぜん、父親としてダメですね」とありますが、「ダメ」だった点を明らかにしつつ、このときの吾郎の気持ちを八十字以内で説明しなさい。

問八 傍線部⑤「吾郎の胸に輝く一番星となった」とありますが、どういふことですか。分かりやすく言いかえて説明しなさい。

問題は以上です。



3

3

3

[illegible]